

International Development Center of Japan
IDCJ 国際開発センター

開発業務の核は「人づくり」 ～(株)国際開発センターの研修事業～

(株)国際開発センター (IDCJ) は、1971年に財団法人として設立されて以来、開発業務の核は「人づくり」であるとの理念の下、調査に並ぶ重要な事業の柱として国内の人材養成に注力してきました。近年は、以下のようなセミナーを実施しています。

①『プロフェッショナル統計分析ワークショップ』

「誰でも必ずわかる！」と毎回、大好評の研修講座です。統計学の基礎から最先端まで、事後評価やインパクト評価（改善効果の評価）に利用できる統計分析技術を4日間で学びます。ソフトウェアの操作法を覚えるのではなく、手計算を行うことによって、計算結果の意味を肌で感じるように工夫されています。講座では、基本的な統計分析技法を学んだあと、構造方程式モデリング (SEM)、階層線形モデル (HLM)、インパクト評価のための最新分析手法（差の差法、傾向スコアマッチング法、操作変数法）などの最新テクニックを学びます。受講生からは「講義がとてもわかりやすかった」「実際に手計算をすることで、理解が深まった」といった声が寄せられています。当講座の修了者には修了証が授与されます。

②『社会調査の基礎と国際開発における実践』

社会調査法は、いまや評価業務において必須の技術です。技術協力プロジェクトでは、世帯レベルのベースライン調査やエンドライン調査が組み込まれることが増えてきており、社会調査の技術がますます求められるようになってきています。この講座では、社会調査の基礎的理論と、国際開発の現場ですぐに使える実用的な技術を2日間で効率よく学びます。取り上げるのは「社会調査の設計と手順」、「標本抽出の理論と手法」、「世帯調査質問票の作成と適用」、「データの収集と分析」な

ど。受講生からは「丁寧に教えてもらえて感謝している」「実例が多く、興味を持って聴講できた」との感想が寄せられています。

③『国際協力NGOインパクト評価入門』

「評価を事業改善に役立てたい」「事業の効果を定量的・客観的に示したい」「最近はやりのインパクト評価を導入してみたい」——こうしたNGOの声に応えて実施している講座です。「インパクト評価の代表的な五つのデザインと適用事例」や「エクセルを使った統計分析（記述統計、事前・事後の有意差検定、実施群・比較群の有意差検定）」を一日掛けて学びます。

④『SROI評価セミナー』

日本でもNPOなどの事業の成果を適切に評価して、その成果をわかりやすく社会に発信することが求められるようになりました。こうした状況を反映して、民間企業の投資審査の手法を応用した「社会的投資収益率法」（SROI: Social Return on Investment）が日本にも紹介されています。2014年度に実施したこのセミナーでは、(特活) SROIネットワークジャパンの協力の下、SROIの基本的理論と日本での先駆的適用事例（障がい者支援施設2件への適応事例）の紹介を行いました。国際開発センターでは、SROI評価の担い手を育てる実践的な研修（2日間を想定）を今年から実施していく予定です。

◆
(株)国際開発センターは、今後も人材養成事業に積極的に取り組んでいく方針です。最新の研修情報は当センターホームページ (<http://www.idcj.co.jp/>) や各種メーリングリストでご案内しています。

(文責：評価事業部 主任研究員 佐々木 亮)



プロフェッショナル統計分析ワークショップ



国際協力NGOインパクト評価入門